



編集・発行

県南教育事務所



# 「かわらないもの」

県南教育事務所長 橋本 美弥子

「春はあけぼの」

枕草子ではありませんが、毎年変わらず、四季を感じる瞬間が訪れます。

春は眼下に黄色い菜の花が咲き、見上げると満開の桜、そしてその奥に広がる青空。モノトーンの世界から、色づく季節が到来したことを実感します。

夏は夜空。初任校はへき地で、家の明かりも少ない場所であったこともあり、写真で見たとおりの天の川が手に届くところにあるように見えたことも思い出です。

秋は金木犀の香りから深まりを感じ、冬は頬に冷たい風を受けながら、始発のバスを待つ際に、必ずと言っていいほど谷川俊太郎の詩『朝のリレー』のフレーズを思い出します。

最近読んだ記事では、「元気のカギを握るのが、神経伝達物質『ドーパミン』で、心理学でいう「報酬」が得られた時に、脳内で分泌されている」のだそうですが、興味深いのはその続きです。「回想しているときも脳内の報酬にかかわる領域が活発化していることが、脳医学の研究から明らかになっており、ノスタルジアはドーパミンを放出させ快感を引き起こすと考えられている」とのことであり、初任の地である県南地区で勤務しながら、当時を回想しているのは、脳を元気にさせていると解釈しているところです。ちなみに、回想だけにとどまっているわけではありません。「大人の総合的な学習」と勝手に命名し、県南9市町村の名物や名店、名所や歴史等、地域の新たな魅力を発見して、気分がウキウキしていますので、ドーパミンが分泌されているはずですよ。

ところで、過日、消滅の可能性のある市町村が県内では33あると報道されました。少子高齢化、人口減少・人口流出は喫緊の大きな社会問題です。VUCA（ブーカ）と呼ばれる時代に突入し、将来を予測することが極めて困難な社会が到来しています。科学技術は日々進化し、「AIの導入によって日本の労働人口の49%の仕事が10-20年以内になくなる」というレポートが、野村総研とオックスフォード大学の共同研究によって発表されてから10年が経とうとしています。気候変動や世界情勢不安等、激動の時代です。

## 「学校事故の防止」

学校は、児童生徒の学びの場、そして、生活の場として最も安全・安心でなければなりません。また、それは、学校教育への信頼を確保する上からも、大変重要なことです。

大事には至らなくても、「ヒヤリとしたり、ハッとしたりした」経験のある教職員は多いことでしょう。また、「あれ」「おや」と違和感に気づくこともあるでしょう。そんな違和感があつたら、そのまましておかないことが重要です。恐れるべきは、ヒヤリ・ハットや違和感に慣れてしまうことです。ヒヤリ・ハットや違和感を声に出せる風通しのよさ、すぐに対応できる機動力があることで、重大な事故の発生を未然に防止することができると思います。「空振りOK、見逃しはダメ」を合言葉に、各学校において学校事故の防止に取り組んでいただきたいと思います。

県南教育事務所では、学校運営支援訪問等を通じて、学校事故防止のための支援に取り組んでいきます。

けれども、サン・テグジュペリの『星の王子さま』の本の中で、「心で見なければものごとはよく見えない。大切なことは目に見えない」と言っているとおり、どんなに世の中の物や事柄が変化しても、美しい・愛おしい・楽しいなどと思える心はとても大切で、人間としての根源である心を育てることは教育の普遍的役割であるべきであるし、そうあり続けたいと願っています。

そして生成AIやロボティクスがいかに発展しようとも、子どもたちには、人間らしい心をもって、自らの人生を力強く切り拓いていって欲しいのです。

時代が変わろうと、子どもは地域の宝物です。これからの社会を担う子どもたちへ、私は子どもたちにこの漢字に込めて思いを伝えます。それは…

## 「挑」！

予測不可能だからこそ、チャンスです。今までと違うことが失敗ではなく、それが、実は新しい時代のトレンドになるのかもしれないのです。子どもたちには失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦し、イノベーションを起こしてほしいと切に願います。

さて、皆さんなら、どんな漢字で子どもたちに思いを伝えますか。



令和6年度市町村教育委員会連絡協議会

西白河・東白川支会研修会より

## 夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

### 「道徳教育と生徒指導の相互関係」

様々な困難や課題を抱える児童生徒が増える中、そして、生徒指導の課題が深刻になる中、課題解決に向けて「道徳教育と生徒指導の相互関係」は重要な機能になるのではないのでしょうか。

また、道徳教育と生徒指導は、両者ともに児童生徒の人格のよりよい発達を目指すものであり、学校の教育活動全体を通じて行うという点で共通しています。

さらに、道徳教育において児童生徒の道徳性が養われることで、日常生活における道徳的実践力が高まり自己実現につながります。これは生徒指導が目指すところと共通しています。逆に、児童生徒に対する生徒指導が徹底されれば、望ましい生活態度を身に付けることになり、道徳性を養うという道徳教育のねらいを支えることになります。

よって、各校の生徒指導上の課題に対応するためにも、学校教育全体で、道徳教育と生徒指導を相互に関連づけた教育活動を計画的・組織的に行っていきましょう。この取り組みが、「夢と希望をはぐくむ県南の教育」につながっていくものと期待しております。



### 「健康マネジメント能力の育成」

令和5年度児童生徒の肥満に関する調査では、本県の児童生徒の肥満傾向児の出現率が、前年度よりやや改善した学年が多くありました。しかし、全国平均との比較においては、依然として大きく上回る結果となりました。これは、県南地区においても同じ状況です。このような現状を踏まえ、県南教育事務所では健康マネジメント能力の育成に向け「健康の保持増進を図る保健教育」と「体力の向上と運動習慣の定着」の2つの重点を掲げました。

子どもたちが自己の健康について関心をもち、健康課題を考え、生活の改善へとつなげるために、「自分手帳」を有効に活用していただきたいと思えます。令和5年度の県南域内における自分手帳の活用率は、小学校で97.1%、中学校で94.4%でした。小・中学校における活用率は向上してきていますので、今後は、児童生徒が健康、運動、食育が相互に関係し合って健康が成り立っていることを深く理解できるよう、学校全体で共通理解のもと健康教育を推進していただきたいと思えます。高等学校においては、中学校との引き継ぎに課題が見られますが、今後、自分手帳のデジタル化を見据え、自分手帳を活用した健康教育についても推進していただきたいと思えます。



### 「資質・能力の育成と学力向上」

～学びの「見取り」と「価値付け」～

「学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか。」これは、ふくしま学力調査の児童質問紙の質問です。そして、この質問に肯定的な回答をする児童ほど学力が高い傾向が見られます。学びの「見取り」と「価値付け」が学力向上につながる事が分かるデータです。

今年度、県南教育事務所では、「学びの『見取り』と『価値付け』」を重点に設定し、以下の3点について学校及び先生方の支援をまいります。

まず、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための支援です。各種訪問をとおして、先生方の授業改善のイメージが持てるように具体的な支援をまいります。

次に、各種調査結果分析を学びの「見取り」と「価値付け」に生かすための支援です。具体的には、学力向上担当者等研修会において、ふくしま学力調査の分析方法に関する研修を行う予定です。また、その分析を学習活動での児童・生徒の「見取り」と「価値付け」に生かしているように支援をまいります。

最後に、情報活用能力育成のための支援です。各種訪問をとおして、具体的な授業場面でICTの効果的な活用方法について具体的に支援をまいります。

誰一人取り残すことのない学びの実現に向けて各学校への支援に取り組んでいきます。



### 「特別支援教育の充実」

昨年度も「地域支援体制整備事業」による相談・研修支援を多くの園・学校に活用いただきました。昨年度の相談支援依頼件数は、延べ98件でした。そのうちの約7割が通常の学級からの依頼であったことから、通常の学級における特別支援教育のニーズがますます高まっていることがうかがえます。特別な支援を受けた生徒が高等学校へ進学するケースも増えていることから、校種を問わず、すべての教員に特別支援教育の専門性が求められています。

このような現状を踏まえ、県南教育事務所では、特別支援教育の重点として、「多様な学びの場における教育の充実・整備の推進」と「切れ目のない支援の充実」をあげました。各種訪問における指導助言の他、「地域支援体制整備事業」による相談・研修支援をとおし、学校全体で特別支援教育に取り組む校内体制の整備と教員の専門性の向上に努めてまいります。また、子ども達が、個に応じた支援を切れ目なく受けながら、学ぶことができるよう、個別の教育支援計画の引継ぎ・活用も推進してまいります。4月に個別の教育支援計画に関する啓発リーフレットを各園・学校に送付させていただきました。ホームページ(QRコード参照)にも掲載していますので、ご活用ください。



## ～学校・家庭・地域の教育力の向上を目指して～ 令和6年度社会教育事業の重点より

社会教育課では、「家庭・地域の教育力の向上」「子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実」「生涯学習推進による人づくり」の三つの重点を掲げ、今年度の各事業を展開してまいります。

### 1 家庭・地域の教育力の向上

5月10日(金)に「地域学校協働研修会地区別研修」を中島村生涯学習センター「輝ら里」で実施しました。講師として県レクリエーション協会事務局長の佐藤喜也氏を招き、「子どもも大人も楽しんでレクリエーション活動の実際」と題し、講義・演習を行いました。また、中島村児童館「輝らキッズ」館長の柳沼昌仁氏の案内で、施設内の見学を行いました。多くの参加者の皆様から「今後の自分の活動に活かせる研修であった」との感想をいただきました。



### 2 子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実

今年度で第10回を迎えるビブリオバトル福島県大会が、10月12日(土)に県立図書館で実施されます。その予選会は、今年度より中学生の部、高校生の部ともに、県内の7教育事務所ごとに行われます。県南地区予選会は8月31日(土)に白河市表郷公民館を会場に行われますが、出場者・観戦者に加え、運営ボランティアを現在募集しています。また、「ひがししらかわ」輝くふる郷体験事業が、東白川郡内8小学校で実施されています。この事業は、地域の産業や歴史・文化にふれる学習や体験学習を通して、地域人材の知恵に学びながら、人と地域の絆を大切にする豊かで優しい心を育むことを目的とした事業です。充実した体験活動が展開できるよう、支援してまいります。

### 3 生涯学習推進による人づくり

5月30日(木)に、白河市東中学校区の3校(小野田小学校、釜子小学校、東中学校)の地域コーディネーター委嘱状交付式が行われました。3校ではこれまで、地域の特色を活かした様々な活動が展開されてきましたが、地域コーディネーターを置くことで、これまで以上に地域と学校の連携が図られ、「地域に開かれた学校づくり」等の効果が期待できます。県南域内の各地域における取組がより一層充実するよう、今年度も研修会等を通して支援してまいります。

## 小学校紹介

### 「成長」～子どもの力を伸ばす学校～

#### 西郷村立熊倉小学校

那須連山のすそ野から北東に広がる緑豊かな「さわやか高原都市 西郷村」の役場前に、まるでお城のような建物があります。それが熊倉小学校です。敷地内には、ハンカチの木やウコンサクラなどの珍しい木を始め、多様な樹木があり、とても美しい環境の中で411名の子ども達が伸び伸びと学校生活を送っています。

令和3年度には学校運営協議会が設立され、コミュニティ・スクールとしてのスタートを切りました。それを機に学校と地域との双方向的な連携・協働をより大切にしながら、教育目標である「本気で取り組み、自分で考え、進んで行動できる子どもの育成」の具現に向けた教育活動を推進しています。

また今年は「漢字・計算コンクール全員合格」、「全校読書冊数1万冊」、「各種運動記録会自己記録更新」、「あいさつは『いつでも、どこでも、だれにでも』」の4つを、全児童の目標として掲げました。411名全員が、この目標の達成に向けて一生懸命学習や運動に取り組んでいます。



### 「やればできる」

#### 矢吹町立矢吹小学校

創立151年目の新たな歴史のスタートを切った矢吹小学校は、教育目標「心の美しい子ども」を掲げ、184名の児童全員の笑顔と安心・安全を第一に考え、教育活動を進めています。今年度は「やればできる」を合言葉に、いろいろなことに挑戦しようとする子どもたちを認め、励まし、称賛して、児童の成長につなげています。まずは、『凡事徹底』を呼びかけ、毎日のあいさつ、身の回りの整理整頓など、日々のあたり前をしっかりとできる子どもを育てています。また、学級づくりを基盤に、縦割り活動(やっぴーなかよしタイム)や委員会活動などの異年齢集団による活動も充実させ、自己有用感の醸成を図っています。保護者や地域の協力も得ながら、読書活動の推進(家読の推進、矢吹子ども読書100選・町移動図書館「よむよむ号」の活用など)、町と連携した地域連携協働活動の促進も行っています。特設陸上・吹奏楽クラブの活動も継続しています。様々な活動を通して心の美しい子どもを育てていきます。



## 新任の先生方から



「新生白河実業高等学校への思い」  
福島県立白河実業高等学校  
校長 浅野 猛

本校は、創立95年の旧白河実業高校と創立75年の塙工業高校が統合し今年度で2年目となります。両校の歴史と伝統を受け継ぎ更に発展させ、地域社会の産業と文化の発展、地域創成に貢献する人材を育成する学校の校長として、日々責任の重さを実感し職務にあたっております。私は本校に着任して、生徒達の明るい笑顔と元気な挨拶、資格取得や部活動・ものづくり等に情熱を持って取り組む高校生らしい姿、生徒達に伴走する先生方に感動いたしました。今後も校長として、生徒が自らの成長を実感できる実業教育を展開して参る所存です。



「広い視野を持って」  
棚倉町立社川小学校  
校長 目黒 公三

これまで先輩の先生方からいただいたご指導の中でも、度々頭をよぎるのが「仕事は、一度に何枚も皿回しをするように」という言葉です。児童や教職員への対応、文書処理、環境整備…。日々多様になっていく仕事を一つずつこなしていたのではどこかが滞ってしまいます。つまり、どこかの皿に手を加えないままにしておくと、その皿は止まってしまう、というイメージです。これは、校長になっても同じです。これからも常に視野を広くもち、児童・保護者・地域・教職員、みんなにとってよりよい学校経営ができるよう尽力してまいります。



「安心感 期待感 満足感」  
塙町立塙小学校  
教頭 鈴木 美沙歩

毎朝自宅から50分間運転し、ゆったりと流れる久慈川を眺めながら車をとめます。降りると、朝の清々しい空気と一緒に木材の豊かな香りが風によって流れてきて、それを胸いっぱい吸い込みます。私はこの瞬間が大好きで、「今日はどんな1日になるかな」と安らぎと期待感いっぱいで解錠します。温かみのある風土と自然豊かな塙小学校に着任できたこと、そして子どもたちの学びに伴走する毎日とはとても幸せです。と、かっこよく書きますが、新任教頭の仕事ぶりは覚束なく、校長先生や教職員、保護者の皆様、地域や町教委の皆様の教えや励ましを受けながら何とか歩みを進めた3か月でした。今後は、306名の子どもたちや38名の先生方の「安心感」「期待感」「満足感」につながるよう、尽力してまいります。



「チーム南中を合言葉に」  
白河市立白河南中学校  
教頭 高橋 徹

白河南中学校に新任教頭として赴任して3ヶ月が経ちました。慣れない仕事内容で見通しも持てない日々でした。そんな中でも毎日の授業や生徒会総会、校内スポーツ大会等の行事で見る生徒の笑顔や頑張る姿に元気をもらっています。

校長先生が目指す、すべての人が「南中に来て良かったと思える学校づくり」を「チーム南中」を合言葉に教職員一丸となって進めることで、学校の力の最大化と Well-being の実現につなげていきたいと思っております。

常に生徒と教職員の成長に喜びを感じ、一人一人に寄り添いながら、共に学ぶ姿勢を大切に頑張ります。



「鑑」  
西郷村立小田倉小学校  
教諭 菊地 菜穂

4月に、新採用として小田倉小学校に着任しました。「学校の教師」として1ヶ月半が経過し、子どもたちの成長に、日々驚かされています。子どもたちと過ごしてみても思うことは、教師は子どもの鑑であるということです。子どもたちへの称賛の仕方、私の態度や表情、服装など、常に子どもたちは見えています。教師の言動から子どもたちは様々なことを吸収するのだと感じる日々です。私が、子どもたちに、「どんな人になってほしいか」を明確にもち、私自身が子どもの鑑であるような態度等を心がけていきたいと思っております。



「子どもたちの笑顔と健康のために」  
鮫川村立鮫川中学校  
養護教諭 中田 美咲

4月、鮫川中学校に着任したばかりの頃は、緊張と不安でいっぱいでしたが、先生方が温かい言葉をかけてくださり、生徒たちは笑顔で楽しそうに学校のことを教えてくれました。こんなにも温かい学校で、養護教諭として勤務できることにうれしさを感じるとともに、この生徒たちの笑顔を守りたい、力になりたいと強く思いました。私は養護教諭として、子どもの小さな変化に気づくことができる観察力や、教員としての指導力を身につけていきたいと思っております。また、経験を積みながら教員として成長し、学び続ける教員でありたいです。